

タイ 同朋

JX商事と資本提携

東南アジア戦略を強化

非鉄金属流通業の同朋金属工業（本社〓東京都葛飾区、城戸茂社長）はこのほど、タイの現地法人「ドウホウ・メタル・タイランド（同朋タイ）」において、JX金属商事（本社〓東京

都中央区、井上勝正社長）と資本提携した。JX金属商事の出資比率は15%。同朋の加工技術と豊富な仕入れソース、JX金属商事のリサイクル事業や化学

品事業といった、それぞれの強みを補完し、顧客サービスの充実と販売拡大を狙う。同朋タイは昨年5月に稼働開始。銅、ステンレス、アルミなどの

条製品を切断加工し、現地の自動車、電子部品メーカーなどに供給している。加工能力はスリッター2台で月間約200ト。タイ南東部のチョンブリ県に位置しており、洪水被害はなかった。

同朋金属は中国（東

莞）、タイに続き、フィリピンのマニラ近郊にも昨年コイルセンターを設立。市場拡大を期待できるアジア地域での、コイルセンター戦略を加速している。一方のJX金属商事は、親会社のJX日鉱日石金属と合弁のコイルセンターがマレーシアにあり、ここからタイのユーザーにも供給。東南アジアでの販売強化を図りたい両社の思惑が一致した。

資本提携合意に伴い、同朋タイは今月、JX商事を引受先に増資を実施した。増資後の資本金は2345万タイバツ（約5650万円）。出資比率は同朋金属工業85%、JX金属商事15%となった。同朋グループは傘下にスリット専門のジェイスリット（本社〓埼玉県八潮市）を抱え、高い切断加工技術がある。また、独立系非鉄流通として仕入れメーカーも多岐にわたる。JX金属商事はスク

ラップ原料のリサイクル事業が強く、金属加工に使う表面処理剤などの販売も手掛ける。事業協力により顧客サービスの充実させ、販売増につなげていきたい考えだ。

JX金属商事は今後、マレーシアから供給しているタイのユーザー向けについては、品質認定を取り付けた上で、同朋タイからの出荷にシフトしていく方針。顧客の要求に対して短納期できめ細かい対応も可能になる。